

# 震災前のレベルに戻りつつある岩手県大槌町における調査支援

所属 大気海洋研究所 共同利用共同研究推進センター 沿岸研究推進室

発表者 ○平野昌明、黒沢正隆、鈴木貴悟

hirano@aori.u-tokyo.ac.jp

## 津浪後の動き

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれに伴う津波により、岩手県上閉伊郡大槌町赤浜に位置する東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターの研究棟3階にまで海水が到達した。幸い教職員や学生などの人的被害は無かったが、弥生・チャレンジャー三世・チャレンジャー二世という3艘の船艇を失い、敷地内の全ての設備が壊滅的被害を被った。2011年度4月より敷地内の瓦礫撤去を進め、3階部分の水道・電気が復旧し、5月には地元漁業者の漁船をチャーターする形で大槌湾内の観測サポートを実施した。8月には新造船グランメーユが進水し、各種観測支援を開始した。2011年度は48件の共同利用研究が予定されていたが、津波による状況変化を受けて21件のみが実施された。その他、急遽震災復興プロジェクトとして、東北マリンサイエンス拠点形成事業をはじめとしたいくつもの観測研究が公募外共同利用として実施されたが、震災後の混乱により記録が残されておらず、正確な利用実数は不明である。2012年度は31件の共同利用研究と22件の公募外共同利用研究が実施された。東北マリンサイエンス拠点形成事業に関連した野外観測が増加し、船舶を用いた観測数が顕著な増加を示した。他にも屋外水槽の部分的復旧、各種観測機器の整備が進められた。2013年度は34件の共同利用研究が実施された(2013年11月末現在)。

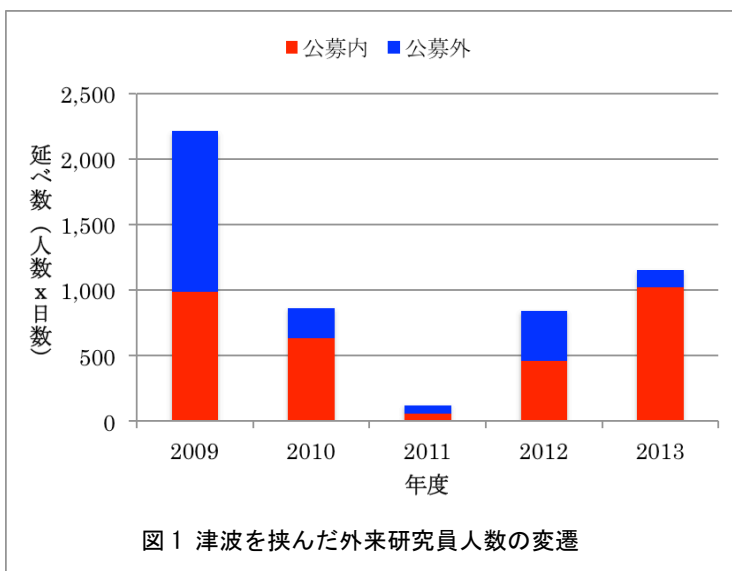


図1 津波を挟んだ外来研究員人数の変遷

## 現況

現在、技術専門職員の黒沢正隆と平野昌明、および特任専門職員の鈴木貴悟、計3名が沿岸研究推進室に在籍し、以下の4艘を用いた研究観測支援を実施している。

- ・ グランメーユ (定員 10 名) : 排水量 1.8 トン、9.53x2.36x0.92m、GPS 付き魚群探知機、電動ドラム 24V、電動散水ポンプを搭載
- ・ 赤浜 (定員 4 名) : 排水量 1.21 トン、5.75x1.55x0.62m
- ・ チャレンジャー (定員 7 名) : 排水量 0.6 トン、5.89x1.77x0.7m、GPS 付き魚群探知機を搭載
- ・ 弥生 (20 名) : 排水量 12 トン、17.50x4.20x2.35m、GPS 付き魚群探知機、ADCP、ソナーを搭載



図2 11月就航開始した弥生